

## 会 議 録

会議の名称	病院運営審議会		
開催日時	平成26年(2014年) 6月23日(月) 13時 30分～ 15時 30分		
開催場所	市立豊中病院 講堂(管理棟5階)	公開の可否	㊦・不可・一部不可
事務局	市立豊中病院 病院総務室	傍聴者数	2人
公開しなかった理由			
出席者	委員	天野陽子、上西晟子、澤村昭彦、四宮雅子、高鳥毛敏雄、多田耕三、津金新、深谷和代、渡邊太郎、鷺尾菊子	
	事務局	管理者 小林栄、総長兼病院長 眞下節、副院長 堂野恵三、副院長 東孝次、副院長 高嶋香奈子、医務局長 嶺尾郁夫、中央診療局長 巽千賀夫、看護部長 児玉洋子、薬剤部長 栗谷良孝、事務局長 小城克未、事務局次長 大東幹彦、医療安全管理室長 中上紀子、地域医療室長 坂萩誠二、医事課長 森山幸雄、栄養管理部長 中井智明、医療情報室主幹 久宿喜市、経営戦略室主幹 中村卓、医療安全管理室主幹 大塚靖男、病院総務室主幹 守屋浩一、病院総務室主幹 鷺見一馬、	
	その他		
議題	(1) 委員長の互選について (2) 委員長職務代理者の指名について (3) 平成25年度病院業務状況の報告について (4) 病院運営計画「実施計画」進捗状況の報告について (5) その他		
審議等の概要 (主な発言要旨)	別紙のとおり		

## 病院運営審議会（審議等の概要）

### ●委員の出席状況と審議会成立の報告

全委員11人中10人出席、本審議会成立を報告

### ●議案審議

- 1 委員長の互選について
- 2 委員長職務代理者の指名について
- 3 平成25年度病院業務状況の報告について
- 4 病院運営計画「実施計画」進捗状況の報告について
- 5 その他

### 《 審議結果 》

- 1 高鳥毛敏雄委員を委員の互選により委員長に選出
- 2 高鳥毛委員長からの指名により、多田耕三委員を職務代理者に選出
- 3 平成25年度病院業務状況について事務局より報告

### 《 質疑応答 》

- 1、 内科の外来患者数が減少しているが、その原因は何か。  
  
25年度より消化器内科の患者数を内科の患者数と分けて集計しており、その分が減少しているように見えているが、従来の表記に合わせると昨年度の患者数と比較してほぼ横ばいで推移している。
- 2、 社会的に医師の不足が問題となっているが、市立豊中病院はどのような対策をとっているのか。また、現在の状況はどうか。

阪大病院をはじめとした各医療機関との交渉により医師確保に努め、ホームページや医療専門誌への募集広告の掲載も随時行っている。現在のところ定数は充足しているが、診療科により状況も異なるので、人員が不足している診療科については、引き続き募集を行っていく。

- 3、 運営計画実施計画の「外来患者数」の目標値より25年度実績は低い。病院は患者数を減らす考えなのか。

当院は中核病院として地域の診療所からの紹介患者受け入れや、症状が安定した患者のかかりつけ医への逆紹介を行っていく役割を担っている。今後も地域医療支援病院として役割分担と連携を行っていく中で、一日あたり外来患者数1,300人の目標達成に取り組んでいく。

- 4、 入院患者における高齢者の割合が多くなっているが、不要な長期入院を減らすことにより、入院待ち日数を減らすことができるのではないか。

高齢になるにつれて罹患率が高くなり、患者比率が多くなっている。高齢者の患者に限らず、症状が安定した患者については、転院やかかりつけ医への紹介を行い、入院待ち日数の削減に引き続き取り組んでいく。

- 5、 薬の処方間違い等のインシデントの再発防止策はどう進めているのか。

インシデントが発生した場合、すぐに報告するシステムを導入しており、報告書作成の過程において、なぜ起こったのか、今後どのようにすればよいかなどを振り返るようにし、その分析結果を病院全体で情報共有できるよう周知している。また、各セクションにセーフティマネージャーも配置し、再発防止のため連携をとっている。

- 6、 院内助産の件数が増えていかない原因はどこにあるのか。

院内助産が可能な母体・胎児に特に異常のない35歳未満の経産婦が少ないことが主な原因と考えている。初産婦にも拡大を検討するとともに、対象者への広報活動も引き続き行っていく。

- 7、 転倒・転落事故の件数について、昨年度と比較してどうか。

転倒・転落の総件数は昨年度と比べるとやや減少している。転落は、低床ベッドの導入が進んだことにより、件数はかなり少なくなってきた。また、転倒も院内デイサービスの効果もあり、若干減少が見られる。

#### 4 運営計画実施計画の進捗状況について、事務局より報告

《 質疑応答 》

- 8、 医療機器の計画的な整備について、購入にあたり治療効果や経営への貢献度を検証するような体制がとれているか。

医療機器の購入については、幹部による各診療科のヒアリングで優先順位を付けながら診療の質の向上や収益性を検討の上、購入計画を立てている。

- 9、 25年度数値目標と29年度数値目標がほぼ同じであるが、これはどう解釈すればいいのか。

運営計画では29年度の数値目標を定めているが、項目により数値の維持を目標とするものや徐々に高めていくものなど様々である。25年度にすでに達成が可能と思われるものについては、最終の29年度と同じ数値目標となっている。

- 10、 費用全体における人件費の割合が50%を切っていることから経営状態がよいとも見えるが、委託費を考慮するともう少し割合が上がると思われる。病院経営における人件費の影響をどう考えているか。

人件費の数値目標については、病院にとって人的資源は非常に重要であり、収入を得るためにある程度人件費の投入も必要であることから、運営計画では設定していない。今後も可能な限り人件費の削減に努めていきたい。

- 11、 累積欠損金の解消についてももう少し詳しく説明してほしい。

病院の建物等資産が目減りが損失となって約196億円の累積欠損金として現れていたが、地方公営企業法の改正により、減資が議会の議決により可能となった。そのため、昨年12月に資本金307億円を持って相殺した。これにより当院の資本金は111億円となったが、同規模病院の資本金の平均額約80億円と比べても十分な金額といえる。

- 12、 今後も高度急性期医療をめざして行くのか。そうであれば、地域連携の強化が必須となるが、具体的な施策はないか。また、地域医療連携部門の組織体制に

ついてどう考えているのか。

当院は地域の中核病院として、安全で質の高い診療とともに、市立病院としての医療提供の責務も果たしている。これまでも豊中市病院連絡協議会や豊中市医師会等と様々な面で協力体制を構築しており、地域の医療機関とも役割分担を進め、今後も継続していきたい。地域医療連携部門の強化については、年々相談件数の増加、相談内容の複雑化の傾向を見極めながら計画を立てていきたい。

- 13、地域連携において、逆紹介率を上げるというのがこれからの課題となってくるが、具体的な方策はあるのか。

病状が安定した患者は、できる限り本人の同意を得て紹介元の診療所等へ逆紹介している。しかし、新たな疾患が見つかった患者やがんの治療を終えたオピオイド使用患者の場合、紹介元では診療できないケースもあるので、その場合は別の医療機関へ紹介することになる。

- 14、認知症患者の行動や夜中の救急患者の入院は一般の患者のストレスとなることが、認知症患者や救急患者専用の病棟を作る予定はあるのか。

認知症の入院患者については、必要に応じて当院の精神科の医師などが対応している。また、豊能医療圏で2次救急を担い、病床利用率が94%を超える当院において、救急病棟を確保することは困難である。

- 15、インフルエンザ等の感染症患者用の特別な待合スペースはないように思うが、感染対策の観点からみてどう考えているのか。

インフルエンザに関しては、サージカルマスクを着用し他の患者と1～2m以上離れて待機して頂けば防護効果が期待できるため、隔離の必要まではないと考えている。ただし、流行時などは小児科外来では少し離れた場所、時間外における救急外来では一般の患者の待合とは離れた放射線科前を待機場所としている。

- 16、病棟での感染対策として、デイルームでの面会の徹底、面会者の病室のトイレの利用や風呂場の水の入れ替え等についてはどう考えているか。

面会者については、風邪や下痢の症状がある方には面会を遠慮いただくようお願いし、インフルエンザ等の流行時期にはその旨のポスターを掲示している。個々の方へは声かけを徹底したい。浴槽の汚れは看護補助員が確認し、お湯は毎日1～2回入れ替えている。トイレも定期的に清掃している。

## 5 その他

- 17、一部新聞で報道のあった公立病院への自治体からの繰入金について、これをゼロにする方向にできないのか。

公立病院は、民間ではできない不採算医療や高度医療を提供する役割を担っており、繰入金は救急医療、周産期医療等その各部門ごとの赤字部分の一部を自治体の一般会計で負担するという制度になっている。また、福祉・介護の分野についても積極的に関与している。経費削減については、今後も積極的に取り組んでいく。

審議会終了後、希望委員を対象に院内施設見学を実施。

次回運営審議会の開催は平成27年1月を予定。

<以上、終了>